



補習校だより

平成26年度 第7号

平成26年5月17日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

土曜日 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail hoshuko@bellsouth.net

教育事情

校長 永井 晋

ある新聞でオランダの教育事情の記事を読みました。オランダは「子どもの幸福度世界一」(ユニセフ2007年2013年)だそうです。ちなみに日本は6位(2013年)だそうです。その記事によるとオランダの教育事情は日本とは大きく異なります。国が「学習到達度」を定め、一人一人の子どもが到達しているかをモニターしているそうです。ある学校で学習到達度に児童生徒が達しないため児童数生徒数が減少すると国が学校に乗り出し指導警告をします。と同時に特別補助金を出し、経験のあるベテラン教員や教育アドバイザー等を派遣し改善を図るそうです。また、国は学校サポートセンターを作り、目標達成が困難な学校を支援するだけではなくて、日常的な教員研修の実施や、新しい教材やメソッドを効果的に活用するための支援などにもあたるそうです。さらに、学校には、教員50%と親50%でつくる「経営参加委員会(MR)」を設置することが法律で義務付けられています。学校運営方針に対しての勧告などを行い、教員の採用や罷免(ひめん)という権能も持っているそうです。

一方日本はというと、行政区によってばらばらで、ある行政区では統一テストの平均点によって予算を配分する

(結果が悪い方が予算が低くなる)というオランダとは反対の所もあります。学校サポートセンターについては、各行政区にある教育センターという施設がその役割を担っていることが多いです。しかし、これも行政区によって内容は様々です。経営参加委員会は、2004年から地域運営学校(コミュニティスクール)が日本でも導入され、全国で1570校(2013年)がコミュニティスクールとなっている。そこでは親だけでなく地域も学校運営に参画しています。そういう意味では補習校はそれに近い運営形態ですね。

